藻類 Jpn. J. Phycol. (Sôrui) 72: 35–37, March 10, 2024

第 20 回国際有害有毒藻類学会（ICHA 2023）開催記

板倉 茂・中山 奈津子・山口 峰生

2023 年 11 月 5 日（日）から 10 日（金）の会期で，広島市のグランドプリンスホテル広島において「第 20 回国際有害有毒藻類学会（International Conference on Harmful Algae：ICHA 2023)」が開催されました。ようやくコロナ禍が落ち着いた事と，最近の円安の状況にも後押しされたためか，学会には 40 ヶ国から約 500 名の関係者が出席し，そのうち 8 割となる約 400 名の参加者を海外から迎える事が出来ました（写真 1）。

本学会は，大会委員長である今井一郎北海道大学名誉教授を中心に，大学や水産研究・教育機構等における赤潮・貝毒研究関係者が学会の現地事務局（LOC）として協力することで，開催準備・運営が行われました。我々 3 名は，開催地の広島にある水産研究・教育機構の廿日市庁舎（旧瀬戸内水研）に所属，あるいはかつて所属して有害･有毒藻類研究に関わり，現在も広島に在住しているため，廿日市庁舎での打ち合わせや，会場であるグランドプリンスホテル広島での委託業者との打ち合わせ等を重ねながら，学会の開催・運営に関わりました。この記事では，事前の準備から実際の学会運営に至るまで，ICHA 2023 で我々が経験した事について紹介いたします。

国際有害有毒藻類学会（ICHA）は，国連教育科学文化機関（UNESCO）の要請を受けて設立された国際有害有毒藻類学会（International Society for the Study of Harmful Algae：ISSHA）が母体機関となって 2 年に一度開催されている，有害有毒藻類の研究分野における世界最大規模の国際会議です。ただしコロナ禍の影響により，研究者が一堂に会して開催されるのは，今回が 5 年ぶりでした。また，日本での開催は 1995 年の仙台大会以来 28 年ぶりとなりました。

そこで今回の学会開催に際しては，学会参加者に対する「おもてなし」を重視したいというのが，我々 3 名の共通認識でした。しかしながら「おもてなし」を実現するためにはそれなりの予算が必要となります。一方で，準備初期の検討段階では今回の学会開催に関する予算は非常に厳しいことが予想され，参加者の人数等によっては大幅な赤字も危惧されるという状況でした。そのため，まずは出来るだけ多くの参加者を募って企業等にも協賛をお願いしつつ可能な限り支出を抑える事が，我々に与えられた大きな課題でした。

写真 1. ICHA 2023 の集合写真.

数百人規模の国際学会を開催する為には，様々な準備が必要とされます。ネット上にはこのような学会準備に関する情報が数多く存在していますが，我々が参考にしたのは日本政府観光局（JNTO）が作成している「国際会議開催マニュアル」でした。このマニュアルは，国際学会開催に必要な事項が細かく具体的に説明されていて，今回の学会準備・運営を行う上でとても参考になりました。上述の予算的な課題をクリアする為に，このマニュアルを参考にしつつ，業者に委託する仕事は必要最小限にして，自分たちで対応できる部分は可能な限り対応していく，という方針で準備を進めていきました。

例えば，学会のロゴマークやオープニングで使用する動画の作成は我々 3 名で対応したり，一部の海外からの参加者が必要とする VISA 取得の手続きについては広島大学で対応してもらったりするなど，外部委託するとそれなりの予算が必要とされる仕事のうち，LOC でも実施可能な仕事については，できる限り対応をしながら準備を進めました。

本学会のロゴマークは，我が国における主な赤潮原因種であるラフィド藻のシャットネラをデザイン化したものでした。日本におけるシャットネラ赤潮は 1969 年に広島湾で発生したのが最初とされており，また大会委員長の今井先生がシャットネラ研究の第一人者であるため今回のロゴマークとして採用し，シャットネラの形態がペイズリー柄に似ているので，神社の神紋や武家の家紋として使われている「左三つ巴」を下地にしてペイズリー柄を模したデザインとしました（図 1）。

図 1．ICHA 2023 のロゴマーク．

大会のオープニングムービーについては，巴紋が雷鳴を表わす文様である事から，雷神が引き起こす雷によってシャットネラが巴紋に取り込まれる，という和風のストーリーで動画を作成しました。このオープニングムービーは，現在でも YouTube 上で見ることが可能ですので，興味がある方は「Logo of ICHA 2023」で検索してみて下さい。また，この動画を掲載した「ICHA 2023」チャンネルには，JR 広島駅から学会会場のホテルまでの経路を紹介した動画も作成・掲載し，海外からの参加者に利用してもらえるように配慮しました。

学会参加申込者から事前に提出されたアブストラクトについては，高知大学，東京大学，三重大学，水産研究・教育機構等の関係者で構成されたプログラム委員会で，査読の手続きやとりまとめを実施しました。それをもとに我々でアブストラクト集やプログラムブックを作成し，表紙は公募により秋の美しい広島の素材や風景画が選ばれました。また，これらの作業と並行して，LOC 委員の知己を頼って本学会に対する協賛企業や展示企業の募集をして，それらのとりまとめ作業を行ったり，コングレスバッグや T シャツの作成を行ったりと，様々な作業を手分けしながら進めました。学会開催時期が近づくにつれて増えてくる海外からの各種問い合わせメールにも対応する必要があり，特に夏以降は，とても慌ただしい日々を過ごす事になりました。

そのような中で，学会の後援組織でもある公益財団法人広島観光コンベンション・ビューロー等によるご尽力の結果，前述の日本政府観光局（JNTO）が募集していた「ポストコロナに向けた国際会議誘致競争力向上事業～実証対象国際会議プログラム～」のうち，「ユニークベニューの活用の実施部門」として本学会の活動が採択され，学会最終日に開催する「ガラ・ディナー」開催に対する助成金をいただけることになったのは，我々 3 名が目指していた参加者（特に海外からの方々）への「おもてなし」を実現する上でも大きな追い風となりました。この事業により「ガラ・ディナー」は，オープニングを広島城での屋外パーティー（テントでの軽食と広島の工芸品である「けん玉」実演や「安芸武将隊」による侍パフォーマンス），次にホテルグランビア広島での着座式パーティー（G7 サミットでも出された広島の食材・お酒等の提供および「神楽」の上演），そして最後に広島の繁華街「流川」における梯子酒ツアー，という 3 部構成で，参加者に日本の「文化」や「食」を高いレベルで楽しんでもらう事が可能になりました。

実際に学会が始まってからは，経費削減のために現地スタッフとして働いていただいた大学や水産研究・教育機構関係者各位の協力のもと，筆者らは主にレセプション・デスク（受付）で待機して，各種イベントへの参加や落とし物等に関する問い合わせに対応しながら，学会スケジュールが滞りなく進むように注意を払う日々でした。そのような中で，時々通りかかる顔見知りの海外研究者から「今回の学会運営は素晴らしい」と声をかけられると，お世辞だろうと思いながらもホッとする気持ちになりました。

また，水研の廿日市庁舎に縁がある我々にとって嬉しかった出来事もありました。それは，今年度から廿日市庁舎の有害・有毒藻類グループに配属された西村朋宏氏が，本学会において Patrick Gentien Young Scientist Award（フランスの故パトリック・ジェンティエン氏にちなんで命名された若手科学者賞で，博士号取得後 10 年以内のキャリア初期の研究者が，有害藻類研究に画期的な貢献をした場合に授与される賞）を受賞した事です。この賞は必ずしも毎回の ICHA で受賞者が選考されるわけではなく，これまでに数名しか受賞していないという名誉な賞で，さらに，受賞のトロフィーとして授与され

たのは，以前から ICHA において木彫りの有害・有毒藻類の模型を提供していただいている元広島県水産海洋技術センターの高山晴義氏作成による，木彫りの有毒渦鞭毛藻（*Gambierdiscus*）が載せられた貴重なトロフィーでした（写真 2）。

準備期間中はやるべきことが多く長く感じていた毎日でしたが，学会が始まるとあっという間に時が過ぎて最終日を迎えました。本学会では，口頭発表・ポスター発表のそれぞれについて 200 以上の件数があり，総数で約 450 件の発表が行われました。無事にこれら全ての行事が終了し，ささやかな打ち上げが出来た時にようやく肩の荷が下りた気分になりました。

最後に，今回の学会開催に際して協賛や後援をしていただいた企業・団体等の皆様，準備・運営に協力していただいた学会会場のグランドプリンスホテル広島や担当企業の皆様，LOC として共に頑張ってきた大学や水産研究・教育機構等の関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。

写真 2. Patrick Gentien Award の受賞トロフィー.

学会・シンポジウム情報

2024 年 3 月 16 日（土）～ 3 月 21 日（木）
第 71 回日本生態学会大会（ESJ71）
（3 月 16 ～ 17 日：オンライン，3 月 18 日：ハイブリッド 関内ホール，3 月 19 ～ 21 日：ハイブリッド 横浜国立大学）
https://esj-meeting.net/

2024 年 3 月 22 日（金）～ 3 月 25 日（月）
日本藻類学会第 48 回大会
（3 月 22 ～ 24 日 : 神戸大学六甲台第 2 キャンパス，3 月 25 日：神戸大学内海域環境教育研究センターマリンサイト）
http://www.sourui.org/annual_meeting/JSP_48th/

2024 年 3 月 27 日（水）～ 3 月 30 日（土）
令和 6 年度公益社団法人日本水産学会春季大会
（東京海洋大学 品川キャンパス）
https://www.gakkai-web.net/jsfs/kaikoku2024S/

2024 年 4 月 14 日（日）～ 4 月 18 日（木）
The 9th Asian Pacific Phycological Forum（APPF2024）
（北海道大学学術交流会館）
https://ec-mice.com/APPF2024/

2024 年 5 月 25 日（土）～ 5 月 26 日（日）
第 24 回マリンバイオテクノロジー学会大会
（筑波大学春日キャンパス）
http://marinebiotechnology.jp/mbt2024/

2024 年 6 月 10 日（月）～ 6 月 12 日（水）
International Conference on Algal Biomass, Biofuels and Bioproducts (AlgalBBB 2024)
(Hilton Clearwater Beach, Florida)
https://www.elsevier.com/events/conferences/all/international-conference-on-algal-biomass-biofuels-and-bioproducts-algalbbb

2024 年 6 月 16 日（日）～ 6 月 21 日（金）
8th Congress of the International Society for Applied Phycology (ISAP2024)
(Porto, Portugal)
https://isap2024.com/

2024 年 9 月 13 日（金）～ 9 月 16 日（月）
日本植物学会第 88 回大会
（9 月 13 ～ 15 日：宇都宮大学陽東キャンパス，9 月 15 ～ 16 日：ライトキューブ宇都宮）
https://bsj88.org/

2024 年 10 月 12 日（土）～ 10 月 14 日（月）
The 29th Biennial Conference of the Asian Association of Biology Education (AABE2024)
（愛媛大学城北キャンパス）
https://www.aabe2024.com

2024 年 11 月 26 日（火）～ 11 月 29 日（金）
第 47 回日本分子生物学会年会
（11 月 26 日：オンライン，11 月 27 ～ 29 日：福岡国際会議場・マリンメッセ福岡 A 館・B 館）
https://www.aeplan.jp/mbsj2024/general-info.html

（学会・シンポジウム情報に掲載希望の情報をお持ちの会員は編集長と芹澤（松山）和世までご一報下さい）